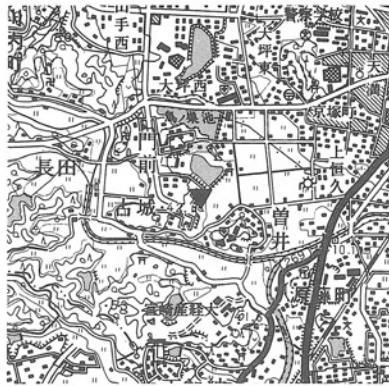


宮崎・曾井第一遺跡

そ
い

- | | | |
|---|---------------|----------------------------|
| 1 | 所在地 | 宮崎市大字恒久字曾井 |
| 2 | 調査期間 | 第一次調査 二〇〇五年(平17)八月~二〇〇六年三月 |
| 3 | 発掘機関 | 宮崎県埋蔵文化財センター |
| 4 | 調査担当者 | 甲斐貴充 |
| 5 | 遺跡の種類 | 遺物散布地・寺院跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 古代~近世 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |



(宮崎)

曾井第一遺跡は、現在の宮崎市街地南西部、大淀川と清武川支流の古城川に挟まれた標高九メートルの丘陵東斜面裾部に位置する。東方には宮崎市街地のある平野部が開ける。本遺跡の南東に隣接する丘陵地には、南北朝時代から戦国時代にかけて曾井氏・伊東氏・島津氏の居城となつた曾井城跡がある。

曾井城の文献上の初見は延文六年(一三六二)で、その後元和元年(一六一五)の一国一城令で廃城になるまで存続したようである。発掘調査は、国道バイパス建設事業に伴い、二次にわたって行なわれた。検出した主な遺構は、古代の周溝状遺構一基、中世末から近世にかけての掘立柱建物八棟・井戸六基・池状遺構一基・溝状遺構・石列・石塔群である。石塔群は、紀年や形態からみて一六世紀から一九世紀頃のものが中心と考えられる。中には、永正一八年(一五二二)と天文六年(一五三七)の紀年銘がある六地蔵幢三基も含まれる。遺物は、縄文時代から古代のものをわずかに含むが、一四世紀から一九世紀の陶磁器類を中心とする。

一四世紀から一七世紀前半にかけての遺構や遺物は、曾井城と深い関わりをもつものと推測され、近世の遺構や遺物は、一八七二年の廃仏毀釈によつて廃寺となつた瑞雲寺もしくはその関連施設に関わるものと推定される。

木簡は、第一次調査において一号井戸から一点、五号井戸から七点、計八点出土した。一号井戸は、井戸枠の上部が平面六角形の石積み、下部が結桶で、掘形は径約二・二三メートル深さ約一・七五メートルを測る。結桶の外側に墨書が認められた。井戸の建築時期は、出土遺物からみて江戸時代末から明治時代初頭と考えられる。五号井戸は、一辺約九〇センチメートル深さ約二七〇センチメートルの組立式方形縦板組の井戸枠をもつ。井戸枠の外側に竹や粘土とともに貼り付けられていた板状木製品に、

墨書が認められた。詳しい築造時期は不明であるが、出土遺物から一四世紀以降と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

一 一号井戸

(1) 八大龍王宮 守護
又迦龍王阿那婆達多龍王伽羅龍王和修吉龍王
羅龍王等若干百千眷屬
一己之十二月十五世寂水獻立

〔井戸枠〕
径730×高1950×厚35 061

二 五号井戸

(1) . □□(イー) □ (キリーク)
・ □□

十一」 (634)×64×10 061

(2) ~ (8) は、いずれも上部を欠損している。下端に数字が記されて
いる理由は未詳。材はモミ属。 (3) の二文字目は、「音」または
「普」の可能性がある。

9 関係文献

宮崎県埋蔵文化財センター『曾井第一遺跡(第一次・第二次調査)』
(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書一七五、一〇〇八年)
(甲斐貴光(宮崎県立西都原考古博物館))

(1) (424)×42×12 061
(362)×42×8 061
(430)×44×4 061

(6) (5) (4) (3) 念七仏 院 過去七仏 一
五 宋

廿□



二(3)

(7) □ (562)×44×10 061

(1) は、井戸枠を構成する一六枚の板のうち六枚に墨書がある。概
ね一枚に一行ずつ書かれているが、文字が一枚の板にまたがる箇所
もあり、板を組んだ後に墨書したと考えられる。「八大龍王」は法
華経に出てくる八竜神のことと、水の神や雨乞いの神ともされる。
井戸枠に記することで、井戸が枯れることなく豊かな水が得られる
ことを祈念したのであろう。「十五世寂水」は安政四年(一八五七)の
紀年銘をもつ無縫塔にもみえ、「[口]」は明治二年(1869)、一八六
九年(1869)の可能性が高い。「当寺」は瑞雲寺を指すか。材はスギ。

井戸枠に記することで、井戸が枯れることなく豊かな水が得られる
ことを祈念したのであろう。「十五世寂水」は安政四年(一八五七)の
紀年銘をもつ無縫塔にもみえ、「[口]」は明治二年(1869)、一八六
九年(1869)の可能性が高い。「当寺」は瑞雲寺を指すか。材はスギ。

